

竹島／独島 21世紀的な解決法は何か

2008.11.17~19 ソウルの国際シンポでの発言骨子
若宮啓文

(1) 現状の分析

- ① 日韓両国の主張にはそれぞれ一長一短
どちらも100%の理があるわけではない。とくに「固有の領土」論には無理がある。
- ② 島に対する韓国と日本の熱気には「100:1」ほどの差
韓国の主張には事実認定の前に「正邪」の価値観があり、エモーショナルになりがち。日本は無関心だが、韓国の反応が日本のナショナリズムをかきたてる。
- ③ 日本が島を武力で取り戻す可能性はゼロ
自衛隊出動のシミュレーションとか軍事演習とかは挑発的にうつる。
- ④ 日本の教科書への記述は韓国に比べてごく控えめ
中学の教科書に載せる際、韓国の主張も載せることになった。日本の基本的な立場は日韓条約の交渉でも一貫しており、それを教科書に書くな、中学生に教えるな、という主張には無理がある。
- ⑤ 島は実効支配している方が強い
韓国は悠然と構えればよい。「紛争がない」というのなら、なおのことだ。
- ⑥ この対立でいちばん喜ぶのは北朝鮮だ。日韓の亀裂。自由主義陣営の亀裂。

(2) 解決への選択肢

① 島を爆破する

過去に朴大統領ら3人の発言記録があるが、現実性はゼロ。

② 国際司法裁判所に委ねる

韓国が踏み切ればスッキリするが、可能性はなさそう。

③ 静かに現状を固定

65年の調印直前の佐藤・李会談で「互いに自国民には互いの言い分を主張する」ことに。日中平和友好条約では尖閣諸島の問題で鄧小平が「こういう問題は一時棚上げしても構わない、次の世代はわれわれより、もっと知恵があるだろう。みんなが受け入れられるいい解決方法を見出せるだろう」（1978.11.23 記者会見）

④ 争いを盛り上げて「不幸な歴史」や「民族対立」のシンボルに

⑤ 平和解決によって世界に誇れる「和解」のシンボルに

ケース1：日本が主張を放棄する。代わりに漁業権や地下資源などで共同開発などに合意。韓国は日本の譲歩を得るため日本の対応を高く評価。「負けるが勝ち」で日本には国際的な評価も。

ケース2：韓国が主張を半分譲って共同領有に。日韓ワールドカップ方式。国際評価は韓国に集まる。日韓でともに「世界遺産」に申請のアイデアも。